

第10回浦昭二記念賞選定記

情報システム学会 浦昭二記念賞選定委員会委員長 杉野 隆

はじめに

2025年の第10回浦昭二記念賞選定では、例年通り2025年7月1日に全会員宛てにメーリングリストによって表彰候補者の推薦を依頼し、9月15日に応募を締め切りました。その結果、特別賞候補2件の推薦を頂きました。本委員会で慎重な審査を行った結果、2件ともに特別賞候補に相応しいとして常務理事会に付議され、常務理事会での審議後、昨年11月の理事会において審査結果が承認されました。

その後、第21回全国大会・研究発表大会（於青山学院大学）の第1日目（11月30日）に表彰式が行われ、会長から、両受賞者に表彰状、盾と金一封が贈られました。

今回は浦昭二記念賞として10回目という節目に当たります。そこで本稿では、表彰内容の紹介（推薦受付順）とこれまでの経緯に加え、委員長としての雑感を述べます。

2025年の表彰者

特別賞1

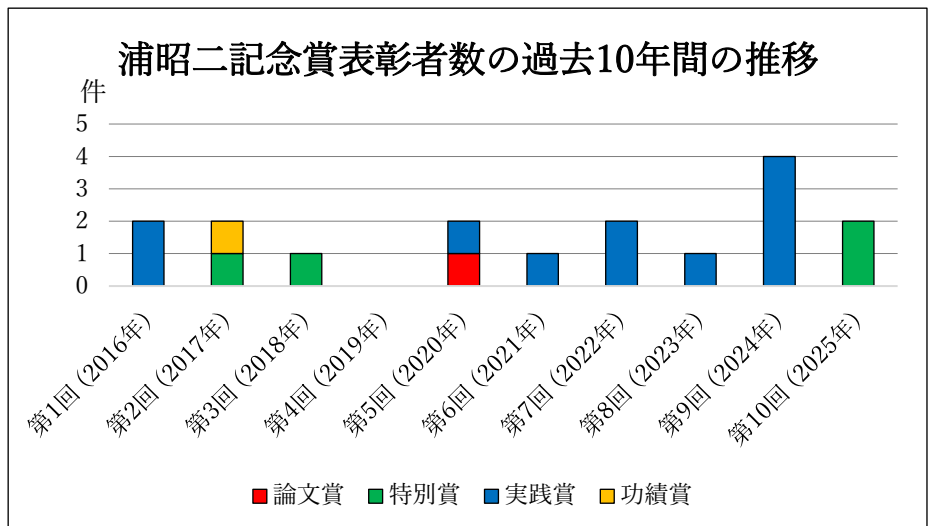
- 表彰対象者：砂田薫氏，国際大学 グローバル・コミュニケーション・センター 主幹研究員，情報システム学会名誉会長
- 表彰対象：著書「情報システム進化論」，行政情報システム研究所刊，情報システム学分野における専門家の教育と育成
- 表彰理由：本書は2025年3月に発行された。情報システムの進化に関して、「人間系」と「機械系」の両面から歴史的に考察し，人間中心の情報システムの発想が出てきた背景を解明している。また，北欧・エストニアを含め，内外の社会・組織における多くの情報システム事例を紹介したうえで，善い目的を持つ人間中心の情報システム開発への実務的な条件として「人間中心の情報システムの条件」を提起している。

特別賞2

- 表彰対象者：蒼海憲治氏（筆名）
- 表彰対象：長年に亘るISSJメルマガ連載“プロマネの現場から”の投稿
- 表彰理由：本学会のメルマガ第20号（2008年4月25日）に「プロマネの現場から」第1回『システム構築ソリューションとシステム開発の現場の間に』を投稿して以来，毎号に途切れることなく投稿され，第212回（2025年11月28日発行）に至っている。著者は，ご自身の勤務されるSI企業のプロマネの現場からプロジェクトマネジメント，人材育成などに関する話題の提供，実践的な提言の発信を10有余年に亘って続けてこれられ，システム開発がそれに携わる関係者の成長の場であることを示している。

これまでの表彰実績

右図にこれまでの表彰者数の推移を示します。10年間の表彰件数を累計すると，実践賞が11件，特別賞が4件であるのに対し，論文賞，功績賞はいずれも1件でした。第4回には3件の推薦を頂きましたが，表彰に相応しい推薦はありませんでした。実践賞が11件というのは，均せば毎年1.1件ということであり，現実の問題解決に実践的に寄与することを目的とす



る情報システム学の立場からは当然のことだと思います。ただ、「学」を追求する集団である本学会のステータスを高めるためにも、「論文賞」候補の推薦を会員の皆様に期待します。2023年2月に浦昭二記念賞選定規程が改定され、論文賞受賞者には、表彰状、盾、賞金5万円に加え奨励金5万円を授与することになりましたが、残念ながら今年度も論文賞表彰はありませんでした。次回、第11回表彰には、会員の皆様から、論文賞を含めさらに多くの表彰候補者を推薦いただくことを期待しています。

なお、これまでの表彰内容の詳細については、学会の『[浦昭二記念賞](#)』サイトを参照してください。

追記

昨年度と同様に、会長による表彰状、盾及び賞金の手渡し授与、そして記念写真撮影を滞りなく終えました。受賞者のスピーチ2件については、時間の都合上、懇親会の席でお願いしました。また、受賞者お二人には、本年5月に開催予定のシンポジウムでご講演いただく予定です。御期待ください。

以上